

2017年度に新工場を設立。 社員第一で築く、確かな技術力

株式会社 廣野鐵工所

創業以来、農業機械部品メーカーとして、その確かな技術力で大手企業をはじめ、様々なものづくり企業の生産を支えてきた(株)廣野鐵工所。高品質な製品供給はもちろん、積極的に最新技術の開発に取り組むことで取引先から絶大な信頼が寄せられています。日本の農業の機械化とともに歩んできた当社の歴史、そして昨年から操業を開始した新工場建設に込められた想いについて、代表取締役社長の廣野幸誠氏にお伺いしました。

株式会社 廣野鐵工所



株式会社 廣野鐵工所

代表取締役社長：廣野 幸誠 氏
本社：大阪府岸和田市
創業：1945年（昭和20年）
社員数：130名
事業内容：農業用機械部品の製造



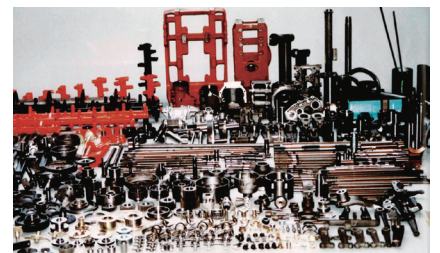
一 戦後まもなくの創業

1945年（昭和20年）、当社は堺で創業しました。私の祖父である廣野石奇が戦争で焼け残った古い長屋を買い取り、1階を工場、2階を家族の住まいに改造して、事業を開始したそうです。創業の翌年には、久保田鉄工所（現 クボタ）の堺工場と取引を開始しました。堺工場では、終戦間もない9月から石油発動機の製造を再開していました。農業用の石油発動機は、用水ポンプの動力や、かんがい、脱穀等の定置作業に使用されており、当社はその発動機の部品製造を請け負っていました。また、機械の修理作業や様々なメーカーの部品製造も並行して請け負っており、戦後復興の勢いを受け、仕事量はまたたく間に増加し、工場は毎日活気に満ちていました。

一 農業機械の草創期を支えて発展

戦後の日本の農業は馬や牛を使った農作業が一般的でした。しかし、高度経済成長の始まる1955年頃から、農業市場では新しい農業機械として「耕うん機」の需要が急増しました。地方から都市へと人口が大量に流出し、農村の労働力不足が顕著になったため、それを補う手段として耕うん機が購入され始めました。こうした日本の農業の機械化に伴い、当社も売上を伸ばし、事業の礎を築くことができました。

生産量の急増に伴い、1972年に泉大津市の臨海工業地に新工場を建設し、3拠点に分散していた工場機能を一か所に集約しました。これにより、生産性が一気に向上したものの、1970年後半から状況が一変しました。オイルショックと、稲作減反政策の煽りを受け、耕うん機の需要が激減。それに伴い、当社の売上も大きく落ち込みました。しかし、厳しい時期でも次のステージを見据えた新しい取り組みとして積極的に設備投資を行いました。そのひとつが、NC加工機の導入です。当時の現場作業は感覚に依存していた部分が大きく、ベテランと若手社員では技術に大きな乖離がありました。そこで、クボタの協力会社の中で最も早くNC旋盤を取り入れました。コンピュータを嫌うベテランよりも若手社員の方が熱心に勉強し、短い期間でどんどん技術を習得しました。こうした社員の成長と工場の機械化の両輪で、品質の安定した製品を低コストで生産することが可能となり、業績は何とか維持できました。



当社で生産している製品の数々



■目指せ！大阪一の社員食堂

木の温もりが感じられ、社員がホッと一息つける食堂。食材には地元の野菜を使用するなど、地域とのつながりも感じられる。味はもちろんのこと、1食あたり230円と社員には嬉しい価格設定。天気の良い日には、屋外のウッドデッキでの食事を楽しめる。



■社員のためのこだわりの施設

工場内のフィットネス施設は、正社員、パート社員なら誰でも利用が可能。運動後はシャワー室でさっぱりと汗を流して帰宅ができる。作業者の更衣室では、個人ロッカーが大きく、室内の通路は着替えやすいよう広く設計されている。施設一つ一つに社員への気遣いが感じられる。



■広さ50畳の和室の会議室

社員の慰労会として使用することができる珍しい和室の会議室。部屋の押入れには災害時の食料や布団などが常備されており、地域の避難所として活用することもできる。新工場を設立する際のコンセプトのひとつである「地域と共存できる工場」を体現している。

一 再び迎えた会社成長の時代

私が社長に就任した2006年頃は、国内製の乗用型芝刈機がアメリカ市場で認知されはじめていた時期でした。性能の高さ、メンテナンスのしやすさが評判になり、急激に販売台数を伸ばしました。それに伴って当社にも部品が大量に発注され、売上が急増しました。また、同時期にダイキン工業との取引が新たに始まりました。受注したのは油圧装置に必要な部品で、これにより取扱品目の幅がさらに広がりました。

このように事業を拡大し続ける過程で、社員のレベルアップが不可欠でした。当社のもづくりは、多品種少量生産の典型です。一品一様の製品に品質を作りこむうえで設計者や機械オペレータの技能レベル向上は必須です。そのために機械メーカーでの講習会や外部研修に社員を積極的に派遣しました。あわせて、生産技術力を強化するために、異業種を含め工場見学会にも参加しました。こうした取り組みが実を結び、2013年には「クボタ優秀取引会社 金賞」を受賞しました。また、3年前に開かれた「第1回 クボタ改善ワールドカップ」という、日本、アメリカ、タイ、中国といった世界各国のクボタのサプライヤーが競う技能大会では、金賞を獲得することができました。



クボタ改善ワールドカップ金賞を受賞

一 社員への想いが詰まった新工場

生産量の増加ならびにBCP（事業継続計画）の観点から、2017年に本社機能と工場を現在の岸和田市へ全面移転しました。耐震・防災や安全確保、リスクマネジメントなど数々の対応こそ、大きな決断の理由です。

新工場の開設にあたり、社員が快適に働ける労働環境づくりに特に力を入れました。味とボリュームに徹底的にこだわった社員食堂をはじめ、バリアフリーかつ空調完備の製造現場、社員が自由に利用できるフィットネス・シャワー室はその思いからできました。また、全部署の事務所を1階の1フロアに集約したことで、部署間の連携がスムーズになり、社員同士の交流も活発に行われるようになりました。

移転に伴い、新しい機械設備の導入も行いましたが、それら进行操作するのは人です。人と機械が調和してはじめて高い生産性が生まれます。社員には、よりよい環境で技術力、現場力、

そして人間力を磨き、さらなる成長につなげて欲しいと思います。



開放的な1階のフロアには、総務、製造、営業をはじめ、社内の全部署が集約されている。

一 社員の満足が顧客満足につながる

当社は自社製品を持たない受注型の加工企業です。お客様の信頼を得るには、秀でた品質、コスト、納期を追求することはもちろん、他社にできないことに先んじて取り組んでいくことが必要です。そのために、当社では創業以来、都度新たな取り組みを実施し、新技術・新工法の開発に努めてきました。あわせて、社員が満足して働ける会社とは何かを常に考え、実現に向け取り組んでまいりました。社員の満足なしに顧客満足はありません。現場で活き活きと働いている社員を見て、当社と取引をしたいと思っていただけるのが理想です。これからも、取引先様と社員、双方に満足してもらえる会社を目指して経営に励んでいく所存です。

一 貴重なお話、ありがとうございました